

令和3年度

## 病害虫発生予察情報 第10号

### 注意報第5号

北海道病害虫防除所 令和3年7月12日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

## てんさいの褐斑病の発生が早まっています！ すみやかに防除を開始しましょう！

道内の各予察ほにおいて、てんさいの褐斑病の初発が平年より早く確認されています。

札幌管区气象台による7月8日発表の1か月予報では向こう1ヶ月の気温は高い確率が60%と予報されています。また、同日発表の2週間気温予報では、7月16日から20日までの気温は平年よりかなり高いと予報されています。本病は気温が高く、周期的な降雨があると急激にまん延するとされており、今後本病の発生に好適な条件となりやすいと予想されます。

本病の防除は初発直後までに開始すると最も効果が高いことから、すみやかに防除を開始してください。また、高温多湿時には散布間隔を短くすることも検討してください。その後も小麦の収穫作業等により防除作業が先送りになって、薬剤の散布間隔が開きすぎないように計画的に防除を継続してください。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生時期 早

3. 予想される発生量 やや多

#### 4. 注意報発令の根拠

- 1) 予察ほでの抵抗性“やや強”品種の「ライエン」における初発は長沼町で6月26日（平年：7月13日）、芽室町で6月28日（平年：7月7日）と平年より早く、訓子府町では7月9日（平年：7月13日）と平年よりやや早かった。また、長沼町及び芽室町の予察ほで作付けしているその他の品種の初発も平年より早かった。
- 2) 本病は高温多湿条件で多発するとされている。また、病原菌は気温が20度前後になると、越冬した罹病葉上に新しい分子子を形成し、これが飛散して第1次発生源となる。
- 3) 7月8日発表の1か月予報によると、向こう1ヶ月の降水量は平年並であるものの、気温は平年より高い確率が60%と予報されており、同日発表の2週間気温予報では、7月16日から20日までの気温は平年よりかなり高いと予報されている。

#### 5. 防除対策

- 1) 初発直後までに散布を開始する。
- 2) マンゼブ剤及び銅剤を基幹薬剤とし、散布間隔は14日以下で、高温多湿条件となった場合は散布間隔を10日以下にする。ただし銅水和剤の残効はマンゼブ剤に比べ短いので注意する。
- 3) QoI剤耐性菌の発生が広範囲に確認されているため、褐斑病に対する防除薬剤として、QoI剤（アゾキシストロビン、クレソキシムメチル、トリフロキシストロビン）は使用しない。
- 4) DMI剤（ジフェノコナゾール、テブコナゾール、フェンブコナゾール、テトラコナゾール）及びカスガマイシン剤耐性菌が全道各地で発生しているため、混合剤も含めこれら系統薬剤の使用回数を可能な限り低減する。
- 5) チオファネートメチル剤に対する耐性菌の発生が道内で確認されているため、上記3) 4) も含め、薬剤の選択には特に注意する。
- 6) 本病に罹病しやすい品種が栽培されている地域では本病の発生推移に注意する。